

1 学校教育目標
<p>「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「体育保健課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「地域との連携」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凜とした気品のある心豊かな人材の育成を目指す。</p> <p>そのために、全職員が教育者としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚 ②使命感と向上心 ③組織の一員としての自覚）や専門性（① 生徒理解と豊かな心の育成 ② 学習の実践的指導力 ③ 保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。</p>

2 本年度の重点目標
<p>(1) 創立 121 年目を新たなスタートと位置づけ、良き伝統は守りつつ、学校の魅力化の一層の推進を図る</p> <p>(2) 自ら学ぶ力を育成し第一志望の実現を目指す</p> <p>(3) 新学習指導要領を踏まえた授業改善及び ICT を活用した学習活動の推進</p> <p>(4) 幅広い経験に基づいた自己変革力を兼ね備えたリーダーの育成</p> <p>(5) 道徳教育と人権教育の推進を図り、いじめ事案に対しては迅速かつ組織的に対応する</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標実現のための体制づくり	教育目標実現や課題克服に対応した組織づくり	運営委員会を中心とした各部や各委員会の連携強化	・ 定期的な委員会開催による各分掌間の協議の場の設定	A	各部・各学年の連携が密に図られて学校運営がスムーズに行われている。
	信頼される学校	特色ある学校づくり	英語コースにおいて更なる特色ある取組の検討	・ 宿泊によるイングリッシュキャンプ等の行事の更なる充実	A	宿泊によるイングリッシュキャンプが実施され、密度の濃い研修ができた。
	働き方改革	働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革	教職員の平均勤務時間外在校時間の昨年度比 2 %削減	・ 業務の縮減業務の平準化等の積極的な推進	A	業務の平準化を推進し、昨年度比 2 %を削減することができた。
学力向上	授業の充実	研究授業・公開授業期間の活用	各教科 1 人以上の研究授業の実施 全職員による 2 回以上の授業参観	・ 共通テーマにそった研究授業の実施 ・ 評価シートを使った参観者から授業茶へのフィードバック ・ 各教科での合評会の実施と記録での報告	B	各教科一人以上の研究授業の実施と合評会を実施できた。しかし、2 回以上の授業参観や他教科の授業参観を全職員ができたかは把握できていない。特に他教科の授業参観については、積極的に行われていない部分もある。せっかく年間 2 回も研究授業・公開授業の期間を設定しているがそれを活かし切れなかった。
		1 年間を通じた授業改善	授業改善の指針の提示と実践 授業評価アンケート項目の検討と、実施	・ 授業改善の 5 つの指針をもとにした授業の実施 ・ 授業評価の結果を踏まえ	B	教務で授業改善の 5 つの指針（一高五輪の書）を作成し、職員会議で提示することができた。しかし、5 つ

			後の結果分析	た授業改善の推進		の指針を職員に定着できなかった。職員がその指針を意識して授業改善に取り組んでくれる方法を検討し、教員自身の振り返りに活用できるように、取り組みの練り直しが必要である。また、授業評価アンケートの項目はこれまでのものを踏襲しながら、変更すべき設問を変更できた。第2回のアンケートは集計中であるが、それを今後の授業改善に活かすように呼びかけたい。
	自学力の育成	家庭学習時間の確保	・ 平日2.5時間の家庭学習時間の確保 ・ 「Classroom」「Classi」等を活用した学習管理	・ 年2回、宅学習時間調査の実施、教科会や学年会でその結果を分析 ・ 調査分析を二者面談等で活用 ・ 年間を通して「classi」等の活用を促し、継続した振り返りから学習時間の確保に繋げる	B	家庭学習の目標時間は1・2年生で達成できなかった。6月と11月の2回実施をしているが、1回目から2回目への大きな変化も見られなかった。しかし、宅学習時間調査を「classi」で行うことで、毎日、担任や教科担任などが生徒個人へコメントを残してくれており、それが生徒の学習意欲に繋がった。
キャリア教育（進路指導）	夢実現に心を燃やし主体的に進路を切り拓く生徒の育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	・ 年3回の進路検討会実施（3年） ・ 年3回の学力分析会実施（1、2年） ・ 年4回の進路ニュースの発行 ・ D1ネットを通じて情報発信を週1回以上更新 ・ 月1回の進路通信の発行	B	年3回の進路検討会の実施、1、2年生の学力分析会を予定通り実施できた。また、進路ニュースの発行、D1ネットでの情報提供に加え、今年度から月1回の進路通信発行も予定通り行うことができ、進路に関する情報発信はより充実させることができた。しかし、生徒自身が低学年での進路目標を設定することに課題があり、進路指導部として低学年向けの指導の充実を考えていく必要がある。
		教科指導力及び進路指導力の向上	各教科との連携強化による職員の教科指	・ 大学入試説明会及び予備校主催の教科		各大学主催の入試説明会や予備校主催の教科指導力研

			導力及び進路指導力の向上	指導力向上研修等の参加促進及び情報の還元（進路だよりの発行） ・年3回の難関大指導者情報共有会の開催 ・大学入学共通テストに関する分析（進路ニュースの発行）	B	修への教員参加は多くはなかった。案内の工夫をすることに加え、教科指導力向上の一環として、予備校主催のものだけでなく教務部と連携しながら、校内でも取組を充実させていきたい。難関大学志望者に対する手立てについてもシステムを見直しマンパワーに頼ることなく組織的に指導できる体制を整えたい。
		進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望実現に向け生徒が主体的に選択し、探究し、活動する環境の整備	・オープンキャンパスやシンポジウム等（D1ネットを用いて）への主体的参加の促進 ・キャリアガイダンスを実施（全員参加型を2回希望者対象を5回）	A	D1ネットや進路室前掲示板を通じて、各種案内を充実させることができた。生徒も積極的に参加していた。また、キャリアガイダンスについても予定回数以上の実施を行うことができ、生徒も主体的に参加していた。内容や講師の専門性の幅を拡充し、生徒が広い視野で自分を見つめることができる機会を今後も計画したい。
生徒指導	生徒指導の継続と徹底	基本的な生活習慣の確立	自己管理（自律）の徹底 ・整容（身だしなみを整える習慣） ・時間の厳守 ・基本的礼節を身に付ける（発声挨拶）	・整容指導礼節指導、遅刻指導を実施（各学期当初に生活全般について指導を行いその中で整容についての指導し身だしなみについて意識させる） ・授業の開始や集会等には5分前に集まる習慣をつけさせる	B	校則改訂に伴って勝手に基準を甘くして若干整容等に乱れが出るかなど危惧していたが、大きな乱れもなく学校生活を送れている。朝の登校時の遅刻は一定数の生徒が毎回遅刻を繰り返している状態で全体としては多くない現状である。授業の開始や集会等の時間は守られていると思う。
		通信機器に関するマナーの向上、とくにSNS等に関するネットモラルや被害者にならないよう指導を徹底する	スマートフォン使用に関して（使う時間帯、場所等、特にSNSに関するマナー等の徹底）	・SNS等のトラブル回避のためにモラルに関する教育を授業や集会等とおして常に指導を行っていく ・ネットモラルやネット上の犯罪に関する	B	校内でのスマホの違反者は学年で差があり毎年1年生が一番多い違反者を出している。入学時にもう少ししっかり指導を徹底していきたい。SNS等のトラブルに関してはモラルに欠ける違反者が多

				るリーフレット等を活用する。		くトラブル回避のための教材をもっとうまく利用し効果を上げる必要があると思った。
	自主自立の精神の育成	規範意識の高揚と自らを律する力を身につけるリーダーを育成する	一高祭（体育部門・文化部門）やその他の生徒会主催の学校行事を充実させるため、生徒会活動の活性化を図る。	生徒会を中心とした総務委員会との組織の中で各々が中心になり企画・運営に携わり充実させる。リーダー研修会を実施しリーダーの育成を図る。	A	一高祭体育部門や文化部門をはじめその他の生徒会行事は企画・立案・運営に至るまで見事に自分たちの力で目標を達成してくれたと思う。リーダーの育成に関しては研修会を計画したがなかなか日程が合わずに出来なかったことは残念だった。
人権教育の推進	教育活動全体を通じた人権教育の推進	職員、生徒の人権意識の高揚	人権教育推進の年間指導プログラムの実践	・人権教育講演会（保健部教育相談部）の実施（年1回） ・2部合同（教育相談部）の職員研修（年2回） ・各学年人権LHRを実施（年3回）	B	・生徒の実態に即し、3部合同教育講演会、県の人権啓発Web講座を活用して職員研修を全生徒及び全職員対象にそれぞれ実施することができた。 ・LHRにおいては、各学年で設定した課題の活動を行うことができた。
	「命を大切にすることを育む指導」の推進	自他の「命」を尊重し、慈しむ態度と心構えを育む取組、及び自らの自尊感情を高めるためのストレス対処に関する取組	教科指導や学年（学級）指導等、全ての場面で「命を大切にすることを育む指導」を根底に据えた教育活動の実践とストレス対処プログラムの実施	・「命を大切にすることを育む指導」プログラムを周知する。（各学期1回） ・生徒人権委員会実施（各学期2回）	B	・「命を大切にすることを育む指導」プログラムの周知が十分に行うことが出来なかった。全ての教育活動において、「命を大切にすることに配慮した指導の実践を推進、周知していく。 ・生徒人権委員会を各学期1回、開催した。熊本県人権子ども集会を生徒人権委員会で、オンデマンド視聴し、人権意識を向上させることができた。
いじめの防止等	いじめ根絶に向けた取組	いじめ根絶に向けた取組	いじめ防止の年間指導プログラムの実践	・毎月10日（休日の場合は前後の日）を「いじめ防止の日」として「いじめを許さない宣言文」を宣誓（年10回） ・生徒人権委員会主導でのいじめ防止に	B	・「いじめを許さない宣言文」の宣誓は、4月是对面式で、5月からは生徒人権委員が電子黒板に投影し、放送部の協力を得て、年10回を実施した。 ・いじめ防止につながるための標語作成については、全生徒に募集する

				つながるための標語作成（年1回）		ことは出来なかったが、人権委員を対象に募集し、作品をD-1ネットに掲載した。
			いじめに関するアンケート実施と結果への組織的対応	・いじめについてのアンケート実施（年3回）と結果を受けての組織的対応	B	・いじめについてのアンケートは、各学期に1回ずつ、各関係部署と連携を密にはかり、慎重に行うことができた。
特別支援教育	生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくり	生徒の状況把握と理解に基づいた対応	特別な教育的支援や配慮を必要とする生徒の実態把握と具体的支援策の検討・実施	・組織的な支援体制の構築（校内委員会の実施と生徒への対応） ・週1回の学年会、教育相談部会における情報収集・共有と関係職員との連携 ・年2回の生徒理解研修による全職員の共通理解 ・SCやSSW、外部機関との連携	A	部会や学年会、生徒理解研修（年2回）を通して、情報共有を行い、SCやSSWと連携して対応することができた。また、特別支援校内委員会や教科担当者会議を開き、保健室と連携して、別室を利用する生徒等への対応を行った。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	総合型コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の実施	年間計画に基づいた学校運営協議会の計画的な実施	学校運営協議会における学校運営に関する意見への対応及び基本方針の承認	・年2回学校運営協議会を開催し具体的な資料提示等による協議及び承認	A	2回とも対面で実施することができ各委員からは、学校運営上参考になるご意見を多数いただくことができた。

4 学校関係者評価

- ・学校評価アンケート結果を見ても、生徒・保護者・職員ともにほとんどの項目で90%を超えており、充実した教育活動が行われていることがうかがえる。
- ・「明確な進路目標を持っている」という設問が、具体的に何を指すのかがわかりにくい気がする。
- ・人権教育の具体的な取り組みについて、小中学校とは違う部分が多いと思うので、教えていただきたい。
- ・第一高校の同窓会活動は活発だと思う。特に、50代を超えてからの参加者の増加が顕著である。
- ・全体的に良い生徒が多く、県内で最も勢いのある高校だと思う。

5 総合評価

- ・時間外勤務時間の縮減については、今まで以上に業務の平準化を行い、大幅にとはいえないが縮減されている。
- ・生徒の主体性を育む教育活動が実践されている。
- ・生徒の進路目標達成のために、全職員を挙げて指導にあたっている。
- ・いじめ事案や生徒指導事案が数件発生したが、迅速かつ組織的に対応できた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・ここ数年、国公立大学合格者数は増加傾向にあり、高校入試における志願者数も増えている。これに甘んじることなく、さらなる魅力化推進を図っていきたい。
- ・難関大学や医学部医学科へ志望する生徒を増やしていきたい。
- ・今年度から「海外交流事業」の行き先をハワイに変え、この事業をさらに充実できたので次年度以降も継続していきたい。
- ・働き方改革については、衛生委員会の充実や職員の意識向上により、さらに推進していきたい。

